

ラウンドテーブル グループ B-1: 教え方

(文責: 野村愛)

B-1 グループ「教え方」は、日本語教育関係者 8 名、EPA 介護福祉士候補者（以下、候補者）の受入施設職員（3 施設）4 名であった。これから候補者を受入れる施設職員 1 名を除き、全員が候補者への学習支援経験がある。

B-1 グループでは、まず、現在行っている候補者への学習支援と悩み・課題について各々が話し、次に共通する主な課題と解決策について意見を出し合った。以下に紹介する。

1) 日本語教育関係者の悩み・課題

2-1) 現場と日本語教育との関連性

- ・就労開始前の日本語研修 6 ヶ月を担当している。教科書に沿って日本語を教えているが、教えている内容が本当に候補者や受入施設の役に立っているか不安。
- ・候補者が一人で夜勤ができるようになり、今後、申し送りができるようになってほしいとの施設からの要望で、日本語を教えている。介護現場で役に立っているか。
- ・オノマトペを取り上げて、ニーズ調査を行ったが、本現場に役立つものか。
- ・施設からの依頼で、公文式の教材で教えている。介護の日本語に特化していない内容を教えているが、目標が国家試験対策なので、一般の日本語を教えるだけでよいか悩む。
- ・就労現場でミスコミュニケーションがあると聞いたが、書くことに重きを置いた学習になっている。
- ・このままの学習支援で国家試験に間に合うかどうか心配。この先どうやって教えていたらよいかわからない。
- ・国家試験対策が現場で教えられているかがわからない。
- ・受入施設の課長が学習支援の計画を立てているが、日本語教育との連携が図れていない。

2-2) 介護の専門的な知識

- ・介護の経験がないので、日本語教師が教えている内容が適切かどうか聞いてもわからない。
- ・就労開始前の日本語研修で、どこまで介護の専門的な内容を授業に取り入れていたらよいか悩む。
- ・日本語教師がどこまで介護知識を得たほうが良いか。
- ・施設を訪問し週 1 回、国家試験対策を担当しているが、制度的なものをどのように教えていたらよいか。病気関係は比較的教えることができる。

2-3) その他

- ・方言をどのように教えたらよいか。
- ・候補者のプライベートな部分にどのように関わっていくか。
- ・JICWELSの集合研修と日本語教師の学習をどのように連携させていったらよいか。
- ・EPA関係の情報が少ない（福岡、高知など）

2) 候補者の受入施設職員の悩み・課題

2-1) 学習支援方法

- ・現在、来日年が異なる4名を受入れている。日本語支援Yのスカイプ授業の他に、2年目の候補者には日本語教室、1年目の候補者には高校の英語の先生に依頼をしている。いろいろな学習支援をしているが対処的であり、各支援方法の結びつきもない。このままで本当に国試合格できるかが不安。
- ・現在の学習支援は、日本語支援Yスカイプ授業（日本語教育）2時間程度、首都大学東京の研修で、その他に補足的な学習として、地域の日本語教室のボランティアの方や、隣の大学の学生に協力してもらっている。現在の学習方法で良いのか、学習管理が課題。
- ・候補者の文化と日本の文化が違うため、食事の際にメニューの内容について説明している。例えば、新キャベツ、～風など。日本独特の言葉は説明が難しい。
- ・これから候補者を7施設で受け入れるが、法人としてどのように受入れたらよいか悩んでいる。日本語教師の採用を考えているが情報がない。つてを頼りながら探すのがよいか。

2-2) その他

- ・EPAの学習支援等に関する情報がない。
- ・介護の日本語が教えられる専門的な日本語教師を確保したい。

3) 主な課題と解決策

3-1) 日本語教育界と介護業界との連携の課題

- ・日本語教師の教えていることが現場で役に立っているか（調査）
- ・送出国・国内の日本語研修、施設での学習支援の連携。（今回のラウンドテーブルでは、これら全ての段階における日本語教育について情報交換ができて有効だった。）

3-2) ネットワークの構築。

- ・日常的に相談できる場所が欲しい。
- ・介護と日本語教育のネットワークや組織作りができればよいのではないかと。例えば、学習支援者間、地域間（行政を巻き込む）、受入施設間のネットワークづくり。
- ・先進的な取り組みとして、静岡県ネットワークがある。行政とEPAを受入れている施設でネットワークを作り、合同研修・相談・情報交換などを行っている。

- ・現在、埼玉2施設と千葉1施設でネットワークを作っている。行政を巻き込みたい。

3-3) 専門的な日本語教師の養成

- ・受入施設としては、介護の日本語を教えられる日本語教師の確保をしたい。日本語教師をどのように採用したらいいか。
- ・留学生に教える日本語と異なるため、介護分野の日本語教育を学びたい。
- ・ボランティアに頼むが介護保険制度を教えるのは難しい。
- ・介護分野の日本語教育に興味があるが教えられない。

3-4) 解決策

- ・現在、候補者の学習支援で悩んでいる状況であるため、急いで解決策を考える必要がある。
- ・すぐにできることとして、この研究会のようなメーリングリストやSNSの活用はどうか。
- ・このようなワークショップはとても有効だった。このような機会がもっとあると良い。
- ・まずはこのラウンドテーブルからネットワークづくりをしても良いのではないか。

以上